

学生支援

International Union of Forest Research Organisations All Division 5 2023 Conference に参加して

連合農学研究科 環境資源共生科学専攻
木材材料学研究室 博士課程3年 根津 郁実

私は6月4日から8日にかけて、オーストラリアのケアンズで開催された IUFRO-DIV 5 2023 Conference に参加してきました。この大会は、4～5年おきに開催され、Forest Products（林産物）に関する様々な研究分野から研究者が集まります。

私は、“Evaluation of xylem maturation manner by radial variation modeling of wood properties in fast-growing tree species in Japan（日本に生育する早生樹における木材性質の半径方向変動モデリングによる木部成熟様式の推定）”というタイトルで、口頭発表しました。近年、国内でも注目を集めている早生樹の植林や木材利用を促進するためには、早生樹において、木部の質的变化がどのように生じるのか、また、樹幹サイズの変化とどのような関係があるのか明らかにすることが不可欠です。本研究では、ユリノキおよびキリを対象に、成長形質と木材性質の経時変化のモデリングから推定した各樹種の木部成熟様式について発表しました。

学会中は、とにかく色々な発表を聞いて、たくさんの人と話そうと思って参加しました。国や所属機関ごとの、研究背景、研究手法、研究内容のトレンドなどの違いを知ることができ、非常に興味深かったです。また、自分の研究室メンバーにも早く共有したい！と思うような研究内容もたくさんありました。

ケアンズはカフェも有名ですが、ブルワリーもたくさんあり、学会後はブルワリーに行きました。ブルワリーは学会会場から近かったため、様々な国からの他の学会参加者も多数来ており、ここでも色々なお話をすることができました。ある人には、学会中の発表内容について質問しようとしたのですが、「今はまじめな話はしない」と言われ、代わりにドイツビールについて教えていただきました（質問内容については、別日にお話できました）。学会も学会外も、充実した楽しい5日間でした。最後になりますが、この学会に参加するにあたり、ご支援いただいた峰ヶ丘同窓会に感謝いたします。本当にありがとうございました。



コロナ禍
学生支援
第4弾

生協コラボ「200円ハラル牛丼」 メニュー提供事業について

生協コラボ「100円カレー」メニュー提供が好評だったとの意見を受け、第4弾と称し、今年の1月30日～2月1日の3日間、大学生協とコラボレーションし、「200円ハラル牛丼」および「ご飯ものメニュー 30円ポイントバック」の提供事業を行いました。

附属農場の「ゆうだい21」を約900kg購入し、今回は3日間限定で行いました。新米であり、限定100食であったことから、連日売切れとなり好評でした。

